



人が環境をつくり、環境が人をつくる！ ～ 無意識化の教育 ～



教師向け通信 Move on
214号より抜粋
子どもたちはこうして
生き方を学びます！

大人の姿に、こどもは未来を見る

教師向け通信 Move on 214号より 「教師」→「大人」等、文言を変え、追記して掲載

教育は、こどもの未来をつくる。こどもたちに、それぞれの良さを活かして、自分の人生をしっかりと歩む自信をつけていきたい。



生徒指導で疲れ果てた毎日を送っていた学校で、女子生徒が「先生、給料いくら？」と聞いてきた。きっと、教師という仕事は、割に合わないと感じていたことだろう。こどもが未来を描くとき、日々、目の前で接してくれる大人の姿に、今の社会のあり様を感じ、自分の夢を重ねる。

不登校や小児うつが増えている。その要因は様々ではあるが、大人として着実にできることがある。それは、大人が、こどもたちの明るい未来を想像できるような存在となることではないだろうか。大人が率先して、毎日を元気で、明るく、仲良く、楽しく！こどもの周りを笑顔で満たすこと！



こどもは、大人の言うことはきかない。大人のやっていることを見て真似る。

荒れている学校で、教師たちが仲良くしている姿を、こどもたちの前で、意識して見せるようにすると途端に落ち着き出す。何事に対しても先生方がチームで動く姿を見て、まいった敵わないと思うのか素直になり、和んで安心するのか勉強にも身が入るようになる。

協力体制が整っていると、こどもは教師や学校に信頼をよせるようになる。保護者と担任や顧問等の学校関係者が、仲良くしているときも同様である。こども自身に直接関係ない場合であっても、仲の良い大人たちを見ると、きまってこどもは嬉しそうだ。

きっと、自分が大人になることへの期待や、仲間と信頼を築ける希望を見出し、平和で幸せな気持ちになるに違いない。

『仲良きことは美しきかな』
武者小路 実篤



大きな大きなひまわりが咲きました！



校長室前の花壇に、司先生が植えたひまわりが、夏休み期間中で、どんどん大きくなっていき、毎日、その成長ぶりを見るのが楽しみだった。日直の職員方が交替で散水し、始業式前には2m程の大きさに育てあげてくれた。

「地を養えば花は自ら開く」という言葉がある。こどもを育てるのも、植物を育てるのに似ている。

地を養えば 花は自ら開く 石川 洋

過ぎたるは及ばざるごとしといわれるが、水を与え過ぎると根腐れするし、水を与えなさ過ぎると枯れてしまう。

子育ても同様に、甘えさせ過ぎも、構わなさ過ぎも、こどもに良い影響を与えない。しかし、そのちょうど良い加減を見極めるのが難しい。そして、その役目を一人で行うことは、とても大変なことである。だからこそ、学校と保護者が常に連携し、こどもの情報を共有して、適宜、適切な教育を行い、大きく大きく育てあげていきたい。

「アメリカ・インディアンの教え」 加藤諦三 著

批判ばかり受けて育った子は 非難ばかりします
敵意に満ちた中で育った子は 誰とでも戦います
ひやかashiを受けて育った子は はにかみ屋になります
かわいそだと育った子は みじめな気持ちになります
ねたみを受けて育った子は
いつも悪いことをしているような気持ちになります
叱りつけられて育った子は
自分は悪い子なんだという気持ちになります
心が寛大な人の中で育った子は がまん強くなります
励ましを受けて育った子は 自信を持ちます
ほめられる中で育った子は 感謝することを知ります
愛を受けて育った子は 愛することを知ります
見つめられて育った子は 頑張り屋になります
公明正大な中で育った子は 正義心を持ちます
分かち合う中で育った子は 思いやりを持ちます
正直な中で育った子は
正直であることの大切さを知ります
認めてもらえる中で育った子は 自分を大事にします
仲間の愛の中で育った子は 世界に愛をみつけます
和気あいあいとした中で育った子は
この世の中は いいところだと思えるようになります

(「CHILDREN LEARN WHAT THEY LIVE」
/ドロシー・ロー・ノルト)

この詩は1954年に発表され、日本では1990年から現在まで、ラジオや書籍、SNSなどで紹介されています。そのいくつかの訳を抜粋し作成しました。